

**EDF**The Education for Development Foundation  
มูลนิธิเพื่อการพัฒนาที่ยั่งยืนEDF WAS AWARDED  
"NGO OF THE YEAR 2012"

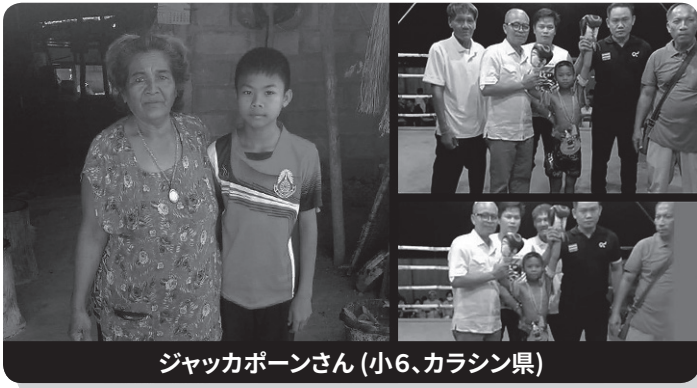
# ダルニフォーラム

第三十七号  
2021年3月

www.edfthai.org/jp

## こんな子どもたちが皆様からの「ご支援」を待っています。

2021年中学校就学の子供達への寄付は10,110人分を目指しておりますが、現在(2021年3月1日)5,562人分のご寄付が集められ、**2021年6月30日の締め切り**まであと3か月となりました現時点で、まだ数多くの子供たちが皆様のご支援を待っています。奨学金を申請しながら、今までずっと待ち続けている子供たちの中から、3人の子供達からの手紙の一部を紹介させていただきます。



ジャッカポンさん (小6、カラシン県)

僕は少年ムエタイの大会に参加して、お金を稼いでおばあちゃんを助けようと決めました。ファイトマネーは200バーツです。傷だらけになりながらも家族のために稼げたなんてとても幸せな気分でした。賞金は食費として全部祖母に渡しました。僕は時々10~20バーツのお小遣いをもらいます。昼ご飯の費用が幾らかによりますが、常にできる限りの節約をしておき学校での諸費用例えばボーイスカウトや社会科見学の代金に充てます。スポーツや体を動かすことが大好きだから体育の授業が一番好きです。奨学金を貰うことができれば、僕はまず靴を買いたいです。今の靴はあまりにも古くてきつすぎるのです。僕の夢はスポーツ選手か指導者になるために体育専門学校に進むことです。



クワンチャイさん (小6、ナコンパノム県)

古い木やトタンや看板広告に使われていたボードと乾燥した草を使った廃墟と化した小さな家に住んでいます。当然、雨季の大雨や乾季の寒さも絶え凌ぐことができません。夜は、ろうそくとランプの灯りで何とか暮らしていますが、家には電気も水道も通っていません。母親も義理の父も安い賃金で雇われる肉体労働者として働いています。日雇いとしてたとえば牛の放牧は一日で50バーツ、ござ編みの仕事は一枚20バーツといった感じです。科目では体育と保健、そして動物の世話をするのが好きです。大人になったら兵士になり自分の国を守りたいです。もし奨学金を受けることができれば必要な学用品、通学のための交通費、飲食代等を賄うことができます。



サシピモンさん (小6、ナコンラーチャシーマー県)

住んでいる小さな家の壁には雨漏りの問題があるので雨季は大変です。父親は日給300バーツの建設労働者です。母親は技能を必要としない単純労働者で、毎日の収入は200バーツです。両親の仕事がない日は学校にこづかいを持っていく事ができません。空いた時間はコンピューターと国語を勉強するのが好きです。将来のキャリアに役立つ知識を得られるからです。また絵を描く事と読書も大好きです。奨学金支援を希望しています。勿論学費に使うのですが、もし残ったら家の屋根の雨漏り修理用の材料を買いたいです。私の目標は大学に進学し、よい仕事、よい収入を得て、両親や弟妹がより良い暮らしができるように養いたいです。

上記の手紙の内容は、タイ国内でEDFの教育奨学金援助を切望している数千人の恵まれない子供達の生活のほんの一例です。すべての人達が、より高くより恵まれた教育環境を求め『貧困の連鎖による悪循環』から抜け出したいと願っています。

コロナ禍で、皆様方ご自身もご不便な生活でご苦労されておられることは存じますが、ご友人、知人へのご紹介、皆様ご自身のご支援も含め、新年度も引き続きご支援ご協力を戴きますよう心よりお願い申し上げます。どうぞよろしくお願い申し上げます。



## ＝EDFと共に、恵まれないタイの子供達を支援するためにファンドレイジングボランティアの一員となって、チャリティイベントを企画・実施してみませんか？＝

私達EDF「ダルニー奨学金」は1987年の創設以来現在まで、タイの子供たちへの奨学金支給活動を推進してきました。しかし、ここ数年、数々の状況の変化から、特に昨年以來世界中を悩ませているコロナ禍により、現在私達EDFの募金活動はより一層厳しい状況に直面しています。この為、皆様にEDFのパートナーとして、より多くの方々からのご支援を戴く為にご自分にできる範囲や方法で楽しくチャリティーイベントを企画・実施する活動をお手伝いいただきたいと強く願っています。具体的には、私共が過去ご協力いただきました方法の中から、いくつかの事例をご紹介します



タマサート大学に留学している日本人大学生さんたちは一緒になって不用品を集め、住んでいるアパートのエリアを借りてフリーマーケットに出店し、売上金をご寄付いただきました。



日本人支援者のYoko Yangja Kimさんはベルリンとブーケットでの仲間たちを自分の50歳のチャリティーバースデーに招待し、任意のご寄付をお願いしました。パーティーの席上で寄付先のEDFについてのご紹介もいただきました。



サッカーが大好きなタイ人支援者プラソップチョークさんは、大学の仲間たちと職場の同僚たちを集め、チャリティーサッカーを行いました。



4歳になったことを祝うためにクリット君が両親と一緒に手作りのクッキーを自分が住んでいる住宅街で販売し、売上金をご寄付いただきました。

ご自分の好きなことや、得意なことを通じて、様々なファンドレイジングのアイデアが考えられると思います。お仕事でお忙しい中、誠に恐縮ではありますが、恵まれない子供達へのご支援の輪を拡げていただける方法を是非ご検討戴き、EDFまでご一報戴きますよう、皆様からの暖かいご提案、お申し出を心からお待ちしております。ご一報戴き次第、喜んでご相談させていただきますので、是非お気軽にご連絡戴きますようお願い致します。

## ニュースと活動報告



寄付金は、ダルニー奨学金制度として、恵まれない子供達への2021年度の中学就学支援に充てられます

バンコク福岡県人会が6年目の奨学金ご寄付  
タイ福岡県人会会長の岡本貞明様(写真左から2人目)より、ご寄付金17,670 バーツを頂きました。これは福岡県人会の皆様によるゴルフコンペで集められたもので、今回が6年目のご寄付となります。このご



1個の販売につき1パーツの寄付というキャンペーンから集められたものです。この売り上げで2021年度の35人分の奨学金に充当されます。

GRAB THAI GO Thailandからのご寄付

GRAB THAI GO Thailandの取締役のプリヤボン様(写真左側)からご寄付金の70,000パーツを頂きました。この寄付金は、同社が製造・販売するトムヤムラーメンやパットタイ(タイ風焼きそば)などタイの有名なストリートフードのインスタント食品の